

都市再生整備計画 事後評価シート

創世交流拠点・創成川以東地区

令和3年3月

北海道 札幌市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	北海道	市町村名	札幌市	地区名	創世交流拠点・創成川以東地区(都市再構築戦略事業)			面積	91.1ha				
交付期間	平成26年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	6,951.2百万円	国費率	1/2				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	北1西1自転車駐車場、市民交流複合施設(多目的ホール)、市民交流複合施設(図書館)、旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	苗穂駅連絡通、苗穂駅北通、苗穂駅前広場連絡歩道、北3条通、西2丁目地下歩道	当初は都市再生推進事業での整備を想定していたが、その後の整理で都市再生整備計画に含めて整備することが妥当であると判断されたこと等による。			歩行者交通量、居住人口及び駐輪場整備台数の増加が見込まれたため、数値目標の見直しを行った。						
提案事業		なし											
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	平成26年度～平成31年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 ※指標4、5は社会资本総合整備計画(持続可能な集約連携都市への再構築)の指標	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	居住環境等の充実が図られることによる居住人口	人	6,518	H25	7,072	H31	-	8,907	○	あり なし	日常生活を支える情報発信拠点となる図書館・多目的ホール等から成る複合文化施設や、近隣エリアの地下歩道整備等により、居住環境が充実した。これにより、創成川近隣地域を中心として周辺地域の居住人口が増加した。	令和4年度
	指標2	都心部における生涯学習施設の整備による日常生活における「回遊する人」の数	人/8時間	5,638	H25	6,221	H31	-	5,969	△	あり なし	札幌市民交流プラザ(計画時名称:市民交流複合施設)の整備や、それに伴う駐輪場の増設により、従前値と比較すると都心部を回遊する人は増加したが、目標達成には至らなかった。	令和4年度
	指標3	多様な機能や多くの人が交流する空間の集積による「回遊する人」の数	人/12時間	7,524	H25	8,329	H31	-	7,858	△	あり なし	札幌市民交流プラザ(計画時名称:市民交流複合施設)の整備や、それに伴う駐輪場の増設により、従前値と比較すると都心部を回遊する人は増加したが、目標達成には至らなかった。	令和4年度
	指標4	対象事業で整備する駐輪場整備台数	台	0	H25	2,079	H31	-	2,464	○	あり なし	苗穂駅北通、北3条通の駐輪場のほか、北1西1自転車駐車場、白石駅地下駐輪場整備により、成果指標としていた駐輪場整備台数の達成に繋がった。	
指標5	交通結節点機能強化による地下鉄白石駅の利用者数	人/日	11,375	H25	12,500	H31	-	14,290	○	あり なし	地下鉄白石駅における歩行者通路や、屋外及び地下広場の整備、駐輪場設置等により、利用者の利便性向上が図られ、利用者数が大幅に増加した。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	-											
	その他の数値指標2	-											
その他の数値指標3	-												
4) 定性的な効果発現状況	創成川以東地区では、「さっぽろ下町づくり社」が設立されるなど、地域におけるまちづくりの機運が向上している様子が見られる。また、地下鉄白石駅の地下広場では、ハンドメイド雑貨のマーケットイベントが開催されるなど、地域のにぎわいづくりに関連する取組が増加している様子が見られる。												
5) 実施過程の評価	実施内容						実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	-					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
	住民参加プロセス	-					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
		-					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
持続的なまちづくり体制の構築	-					都市再生整備計画に記載し、実施できた							
	-					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

創世交流拠点・創成川以東地区(北海道札幌市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 「職」・「住」・「遊」近接の歩いて暮らせる創造性豊かなまちの形成 目標1: 誰もが都心の魅力を楽しみながら快適に暮らせるまち 目標2: 人を中心とした界わい性を感じるまち 目標3: さまざまな活動ができる創造性豊かなまち	居住環境等の充実が図られることによる居住人口	単位: 人 6,518 H25	7,072 H31	8,907 R2
	都心部における生涯学習施設の整備による日常生活における「回遊する人」の数	単位: 人/8時間 5,638 H25	6,221 H31	5,969 R2
	多様な機能や多くの人が交流する空間の集積による「回遊する人」の数	単位: 人/12時間 7,524 H25	8,329 H31	7,858 R2
	対象事業で整備する駐輪場整備台数	単位: 台 0 H25	2,079 H31	2,464 R2
	交通結節点機能強化による地下鉄白石駅の利用者数	単位: 人/日 11,375 H25	12,500 H31	14,290 R2

札幌市民交流プラザ
(計画名: 市民交流複合施設)
多目的ホール、図書館






創世交流拠点・創成川以東地区 (91.1ha)

凡例
 都市再生整備計画区域
 基幹事業
 効果促進事業
 関連事業

苗穂駅連絡通、苗穂駅北通、苗穂駅前広場連絡歩道、北3条通





まちの課題の変化

苗穂駅周辺のほか、市民交流複合施設、地下鉄白石駅など、新たに整備した施設については、周辺エリアの魅力向上について一定程度寄与したものと考えられるが、今後は、整備した施設について、予防保全型の視点などにより適切な維持管理を進めていく必要がある。また、市民交流複合施設については、札幌市の中枢を担う公共施設であることから、より一層の稼働率や利用者数の向上に繋がる取組を進め、市民や来街者の新たな価値の創出に繋げつつ、既存の地域コミュニティの活性化に寄与できる施設としていく必要がある。さらに、地下鉄白石駅周辺地区においては、まちづくりに係る地域の取組等、事業実施による地域の変化をきめ細やかにモニタリングしつつ、より魅力的な地域としていくために必要な支援策について、引き続き検討していく必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 市民交流複合施設のほか、JR苗穂駅周辺地域、地下鉄白石駅等に整備した新たな施設については、予防保全の考え方による計画的な修繕や改修の実施方策を検討し、快適な利用環境の維持を図る。
- 都心部については、回遊する人口の増加を図るため、都心部を歩きたくなるまちなかとするための課題や資源等の把握を行い、必要な取組の検討を行う。
- 市民交流複合施設について、より多くの利用を図るほか、利用者への満足度向上のため、利用者に対する定期的なアンケートやヒアリング等のニーズ把握に関する取組を継続的に行う。
- JR苗穂駅や地下鉄白石駅の施設利用者の快適な利用環境の向上に向け、必要な取組の検討を行う。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		6,804人/12時間	8,329人/12時間	指標3について、指標設定のもとになる休日12時間歩行者交通量(H25年値)の集計に誤りがあったため。
D. その他(従前値)	●		6,118人/12時間	7,524人/12時間	指標3について、指標設定のもとになる休日12時間歩行者交通量(H25年値)の集計に誤りがあったため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	苗穂駅連絡通	-	なし	112.0	苗穂駅連絡通の道路整備(L=340m、W=16m)	平成30年に計画変更(第4回)して追加	都市再生整備計画の計画期間の変更(H26~H30→H26~H31)	●	
	苗穂駅北通	-	なし	193.9	苗穂駅北通の道路(L=100m、W=16m)及び北口駅前広場(A=3,800㎡)の整備	平成30年に計画変更(第4回)して追加	同上	●	
	苗穂駅前広場連絡歩道	-	なし	774.8	苗穂駅前広場連絡歩道の整備(L=130m、W=10m)	平成30年に計画変更(第4回)して追加	同上	●	
	北3条通	-	なし	179.7	北3条通南口駅前広場の整備(A=5,000㎡)	平成30年に計画変更(第4回)して追加	同上	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	北1西1自転車駐車場	263.0	自転車駐車場の整備(A=845㎡)	251.9	自転車駐車場の整備(A=799㎡)	施設面積、金額の変更	なし	●	
	西2丁目地下歩道	-	なし	909.0	地下歩道の整備(L=150m、W=8m)	平成28年に計画変更(第3回)して追加	都市再生整備計画の計画期間の変更(H26~H29→H26~H30)	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	市民交流複合施設(多目的ホール)	3,000.0	市民交流複合施設(多目的ホール)の整備(A=4,656㎡)	3,000.0	市民交流複合施設(多目的ホール)の整備(A=6,795㎡)	施設面積の変更	なし	●	
中心拠点誘導施設	市民交流複合施設(図書館)	1,363.0	市民交流複合施設(図書館)の整備(A=1,718㎡)	1,351.5	市民交流複合施設(図書館)の整備(A=1,903㎡)	施設面積、金額の変更	なし	●	
既存建造物活用事業	旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮	251.0	耐震改修工事(A=650㎡)	178.4	耐震改修工事(A=660㎡)	施設面積、金額の変更	なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発事業		札幌市中央区北1条西1丁目	12,172	14,680	H25～H29	H25～H29	H29完了済み	
北4東6周辺地区市街地再開発事業		札幌市中央区北4条東6丁目	4,465	4,996	H25～H30	H25～H30	R2完了予定	
苗穂駅周辺地区整備事業		札幌市中央区北4条東6丁目	8,400	0	H25～H31	-	-	基幹事業(苗穂駅連絡通、苗穂駅北通、苗穂駅前広場連絡歩道)に追加したため削除
西2丁目地下歩道		札幌市中央区北1条西2丁目	3,390	0	H26～H29	-	-	基幹事業(西2丁目地下歩道)に追加したため削除
北3東11周辺地区市街地再開発事業		札幌市中央区北3条東11丁目	-	2,179	-	H26～H32	R3完了予定	平成30年に計画変更(第4回)して追加
苗穂駅移転橋上化事業		札幌市中央区北3条東11丁目	-	5,305	-	H25～H31	R1完了済み	平成30年に計画変更(第4回)して追加
苗穂駅北口西地区優良建築物等整備事業		札幌市中央区北4条東10丁目	-	728	-	H30～H32	R2完了予定	平成30年に計画変更(第4回)して追加
白石駅地下駐輪場整備		札幌市白石区東札幌2条6丁目	267	217	H26～H28	H26～H28	H28完了済み	
地下エントランス広場整備		札幌市白石区東札幌2条6丁目	129	94	H26～H28	H26～H28	H28完了済み	
歩行者通路等公共空間整備		札幌市白石区東札幌2条6丁目	19	0	H26～H28	H26～H28	H28完了済み	
大通東4地区優良建築物等整備事業		札幌市中央区大通東4丁目	-	200	-	H27	H27完了済み	平成26年に計画変更(第1回)して追加
大通東1地区基本計画等作成等事業		札幌市中央区大通東1丁目	-	21	-	H29	H29完了済み	平成28年に計画変更(第5回)して追加
市民交流複合施設アートセンター整備事業		札幌市中央区北1条西1丁目	825	805	H26～H29	H26～H29	H29完了済み	
市民交流複合施設屋内広場等関連施設整備事業		札幌市中央区北1条西1丁目	3,084	2,694	H26～H29	H26～H29	H29完了済み	
創世交流拠点周辺街区エネルギーネットワーク整備事業		札幌市中央区北1条西1丁目	-	312	-	H28～H30	H30完了済み	平成28年に計画変更(第4回)して追加

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度	目標年度					あり	なし		
指標1	居住環境等の充実が図られることによる居住人口	人	都市再生整備計画エリア内の住民基本台帳(町名・条丁目別)の人口から算出した。		6,518	H25	7,072	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	●	8,907	事後評価	○	
指標2	都心部における生涯学習施設の整備による日常生活における「回遊する人」の数	人/8時間	北1条橋及び北2条橋において、創成川以東地区と創世交流拠点間を往来する平日昼間の歩行者交通量(朝夕のピーク時を除いた昼間8時間が対象)を調査し、集計・算出した。		5,638	H25	6,221	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
									事後評価	確定見込み	●	5,969	事後評価	△	
指標3	多様な機能や多くの人が交流する空間の集積による「回遊する人」の数	人/12時間	北1条橋及び北2条橋において、創成川以東地区と創世交流拠点間を往来する休日の歩行者交通量(休日の余暇活動昼間12時間が対象)を調査し、集計・算出した。		7,524	H25	8,329	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
									事後評価	確定見込み	●	7,858	事後評価	△	
指標4	対象事業で整備する駐輪場整備台数	台	整備実績から算出した。		0	H25	2,079	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	●	2,464	事後評価	○	
指標5	交通結節点機能強化による地下鉄白石駅の利用者数	人/日	札幌市が公表する「札幌の都市交通データブック2019」における地下鉄白石駅の乗車人員(平成30年度値)を評価値とした。		11,375	H25	12,500	H31	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	●	14,290	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値に至ったため、○とした。	
指標2	計測の結果、目標値には至らなかったが、従前値は上回ったため△とした。	計測の位置や時期を合わせることはできるが、天候や不定期イベントの開催、新たな移動ルートの開発などの外的要因により、集計値が変動しやすい。
指標3	計測の結果、目標値には至らなかったが、従前値は上回ったため△とした。	同上
指標4	目標値に至ったため、○とした。	
指標5	目標値に至ったため、○とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1	-						モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2	-						モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3	-						モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

創成以東地区では、「さっぽろ下町づくり社」が設立されるなど、地域におけるまちづくりの機運が向上している様子が見られる。また、地下鉄白石駅の地下広場では、ハンドメイド雑貨のマーケットイベントが開催されるなど、地域のにぎわいづくりに関連する取組が増加している様子が見られる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
実施なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
実施なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内等組織による検討	・札幌市市民文化局文化部文化振興課 ・札幌市まちづくり政策局都市計画部事業推進課 ・日本データサービス株式会社	令和3年2月	札幌市市民文化局文化部

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標4		指標5	
指標名		居住環境等の充実が図られることによる居住人口		対象事業で整備する駐輪場整備台数		交通結節点機能強化による地下鉄白石駅の利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	苗穂駅連絡通	◎	・苗穂駅周辺地区の整備による利便性向上が、居住人口の増加に繋がったものと考えられる。 ・西2丁目地下歩道については、該当エリアの居住人口増を直接的な目的としたものではないが、都心部の回遊性が向上したことから地域の魅力アップに繋がり、居住人口の向上に間接的に関与したものと考えられる。 ・市民交流複合施設の整備に関連する事業については、該当エリアの居住人口増を直接的な目的としたものではないが、都心部における都市機能の利便性が向上したことから、周辺地域の魅力アップに繋がり、居住人口の向上に間接的に関与したものと考えられる。	-	・苗穂駅北通、北3条通の駐輪場のほか、北1西1自転車駐車場、白石駅地下駐輪場整備により、成果指標としていた駐輪場整備台数の達成に繋がった。	-	・地下鉄白石駅における地下エントランス広場が整備された効果として、マーケット等の地域のにぎわいづくりに繋がるイベントが開催されるようになり、地下鉄駅利用者数の増加に寄与したものと考えられる。 ・歩行者通路や自転車駐輪場の整備により、利用者の利便性向上に繋がり、地下鉄駅利用者数の増加に寄与したものと考えられる。
	苗穂駅北通	◎		◎		-	
	苗穂駅前広場連絡歩道	◎		-		-	
	北3条通	◎		◎		-	
	北1西1自転車駐車場	-		◎		-	
	西2丁目地下歩道	○		-		-	
	市民交流複合施設(多目的ホール)	○		-		-	
	市民交流複合施設(図書館)	○		-		-	
旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮	-	-	-	-			
提案事業							
関連事業	札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発事業	○	・市民交流複合施設の整備に関連する事業については、該当エリアの居住人口増を直接的な目的としたものではないが、都心部における都市機能の利便性が向上したことから、周辺地域の魅力アップに繋がり、居住人口の向上に間接的に関与したものと考えられる。	-	・苗穂駅北通、北3条通の駐輪場のほか、北1西1自転車駐車場、白石駅地下駐輪場整備により、成果指標としていた駐輪場整備台数の達成に繋がった。	-	・地下鉄白石駅における地下エントランス広場が整備された効果として、マーケット等の地域のにぎわいづくりに繋がるイベントが開催されるようになり、地下鉄駅利用者数の増加に寄与したものと考えられる。 ・歩行者通路や自転車駐輪場の整備により、利用者の利便性向上に繋がり、地下鉄駅利用者数の増加に寄与したものと考えられる。
	北4東6周辺地区市街地再開発事業	◎		-		-	
	北3東11周辺地区市街地再開発事業	◎		-		-	
	苗穂駅移転橋上化事業	◎		-		-	
	苗穂駅北口西地区優良建築物等整備事業	◎		-		-	
	白石駅地下駐輪場整備	-		◎		◎	
	地下エントランス広場整備	-		-		◎	
	歩行者通路等公共空間整備	-		-		◎	
	大通東4地区優良建築物等整備事業	◎		-		-	
	大通東1地区基本計画等作成等事業	-		-		-	
	市民交流複合施設アートセンター整備事業	○		-		-	
市民交流複合施設屋内広場等関連施設整備事業	○	-	-				
創世交流拠点周辺街区エネルギーネットワーク整備事業	○	-	-	-			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した施設を適切に維持管理するとともに、地域の魅力向上のための取組を進め、居住人口のより一層の増加に努める。	整備した駐輪場を有効に活用し、都心部や当該地下鉄駅周辺の快適な利用環境の維持に努める。	整備した地下エントランス広場を有効に活用し、駅周辺地域のにぎわいや魅力向上に努めるほか、地下鉄駅利用者の快適な利用環境の維持に努める。
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2			指標3								
指標名		都心部における生涯学習施設の整備による日常生活における「回遊する人」の数			多様な機能や多くの人交流する空間の集積による「回遊する人」の数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	苗穂駅連絡通	△	・苗穂駅周辺の整備をはじめとする創成川以東地区の開発等により、対象エリアの人口は増加を続けており、都心部を回遊する人口の増加に一定程度寄与しているものと考えられる。 ・市民交流複合施設の整備が完了し、当初の想定を大きく上回る利用者数がみられていることから、都心部を回遊する人口の増加に一定程度寄与しているものと考えられる。 ・並行して行った地下歩道の整備などにより、移動パターンの変化(外ではなく、地下歩道を通行する等)が生じた可能性も考えられる。	Ⅲ	△	・苗穂駅周辺の整備をはじめとする創成川以東地区の開発等により、対象エリアの人口は増加を続けており、都心部を回遊する人口の増加に一定程度寄与しているものと考えられる。 ・市民交流複合施設の整備が完了し、当初の想定を大きく上回る利用者数がみられていることから、都心部を回遊する人口の増加に一定程度寄与しているものと考えられる。 ・並行して行った地下歩道の整備などにより、移動パターンの変化(外ではなく、地下歩道を通行する等)が生じた可能性も考えられる。	Ⅲ						
	苗穂駅北通	△			△								
	苗穂駅前広場連絡歩道	△			△								
	北3条通	△			△								
	北1西1自転車駐車場	△			△								
	西2丁目地下歩道	-			-								
	市民交流複合施設(多目的ホール)	△			△								
	市民交流複合施設(図書館)	△			△								
旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮	-	-											
提案事業													
関連事業	札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発事業	△		Ⅲ	△		Ⅲ						
	北4東6周辺地区市街地再開発事業	△			△								
	北3東11周辺地区市街地再開発事業	△			△								
	苗穂駅移転橋上化事業	△			△								
	苗穂駅北口西地区優良建築物等整備事業	△			△								
	白石駅地下駐輪場整備	-			-								
	地下エントランス広場整備	-			-								
	歩行者通路等公共空間整備	-			-								
	大通東4地区優良建築物等整備事業	△			△								
	大通東1地区基本計画等作成等事業	-			-								
	市民交流複合施設アートセンター整備事業	△			△								
市民交流複合施設屋内広場等関連施設整備事業	△	△											
創世交流拠点周辺街区エネルギーネットワーク整備事業	-	-											

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・目標値設定の根拠としていた市民交流複合施設の利用者数については、当初想定以上の数値となっていることから、引き続き施設利用の促進に努める。</p> <p>・もう一方の目標値設定根拠である都心の区域内実容積率は、想定した増加率に達しなかったことから、民間施設等の立地に係る誘導策について、引き続き検討を行う。</p> <p>・さらに、都心エリアについて、より歩きたくなるまちなかとしての在り方を研究しつつ、必要な取組について検討を行う。</p>
------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内等組織による検討	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市市民文化局文化部文化振興課 ・札幌市まちづくり政策局都市計画部事業推進課 ・日本データサービス株式会社 	令和3年2月	札幌市市民文化局文化部

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
商業施設の大規模化や郊外化により、市街地内で均質に提供されることが望まれる生活利便施設の偏在・集中など、自動車を利用しない市民の生活利便性の低下が課題となりつつある。	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄白石駅やJR苗穂駅について行った利便性向上のための各種整備により、公共交通利用者の利便性が一定程度改善されたものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺へのさらなる都市機能の集約や、生活関連サービスの充実を図るため、今後必要となる取組の検討を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苗穂駅周辺や都心部の新たに整備した施設については、予防保全的な視点を持ち、持続的かつ効率的な維持管理を進めていくことで、利用者の安全性や利便性を適切に確保するほか、施設のライフサイクルコスト縮減を図り、環境に配慮した施設運営を進めていく必要がある。 ・市民交流複合施設については、札幌市の中枢を担う公共施設であることから、利用者のニーズ等をきめ細やかに把握しつつ、より一層の稼働率や利用者数の向上に繋がる取組を進めることで、市民や来街者の新たな価値の創出に繋げつつ、周辺地域も含むコミュニティの活性化に寄与できる施設としていく必要がある。 ・再開発事業を実施した創成川以東地区のほか、地下鉄白石駅周辺地区においては、まちづくりに係る地域の取組等、事業実施による地域の変化をきめ細やかにモニタリングしつつ、より魅力的な地域としていくために必要な支援策を引き続き検討していく必要がある。
コンパクトシティの実現を促進するため、最も中心的な拠点である都心に、様々な都市生活の魅力を享受し、快適に生活できる場を形成していくことが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホール、図書館、事務所等の複合機能を有する市民交流複合施設の整備により、都市生活の魅力を享受し、快適に生活できる場の形成に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部を回遊する人口については、目標値の達成に至らなかったことから、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の視点などにより、札幌市の都心部において、今後必要となる取組の検討を行っていく必要がある。 	
創成川通の東西市街地の空間的なつながりが弱いことなどから、創成川以東地区は都心にありながら土地利用更新が停滞し、土地の低未利用などの課題を有している。また、苗穂駅周辺地区では、JRによる南北分断などの地域課題も有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・創成川以東地区の再開発事業などにより、低未利用な土地の解消に繋がった。また、苗穂駅の橋上化によりJRによる南北分断が解消され、駅周辺のアクセス性向上に繋がった。 	なし	
都心居住を促進していくうえで重要となる生活利便施設のうち、情報面で市民の生活や活動を支え、地域からの要望が強い教育文化施設(図書館)が立地していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能を有する市民交流複合施設の整備により、課題の解決に至った。 	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	地下鉄白石駅、JR苗穂駅の利用に関する快適性の持続	・新規に整備した施設について、適正な維持管理を行うため、予防保全の考え方により計画的な修繕や改修を実施する。	中長期的な修繕計画(長寿命化計画)の検討など
	市民交流複合施設の効果的な利用の持続	・市民交流複合施設について、快適な利用環境を維持するため、予防保全の考え方により計画的な修繕や改修を実施する。	中長期的な修繕計画(長寿命化計画)の検討など

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	居心地が良く歩きたくなるまちなかに係る取組のさらなる推進	・都心部を回遊する人口の増加を図るため、都心部を歩きたくなるまちなかとするための課題や資源等の把握を行い、必要な取組の検討を行う。	・居心地が良く歩きたくなるまちなかにするための課題や資源、先進事例の把握等による可能性調査 など
	市民交流複合施設の利用者ニーズ把握	・市民交流複合施設について、より多くの利用を図ることを目的として定期的に行っているニーズ調査について、今後も継続的に実施することで、利用者ニーズに配慮した改善の検討を行う。	・利用者の実態把握調査 など
	地域の魅力向上のための取組や、駅周辺への都市機能の集約に係る取組のさらなる推進	・JR苗穂駅や地下鉄白石駅の施設利用者の快適な利用環境の向上に向け、必要な取組の検討を行う。	・駅周辺地域のにぎわいや活性化や、駅利用者の生活関連サービスの拡充につながる事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	居住環境等の充実が図られることによる居住人口	人	6,518	H25	7,072	H31	確定 ● 見込み	8,907	○	あり なし	→	令和4年度	都市再生整備計画エリア内の住民基本台帳(町名・条丁目別)の人口から算出する。	
指標2	都心部における生涯学習施設の整備による日常生活における「回遊する人」の数	人/8時間	5,638	H25	6,221	H31	確定 ● 見込み	5,969	△	あり ○ なし	→	令和4年度	北1条橋及び北2条橋において、創成川以東地区と創世交流拠点間を往来する平日昼間の歩行者交通量(朝夕のピーク時を除いた昼間8時間が対象)を調査し、集計・算出する。	
指標3	多様な機能や多くの人が交流する空間の集積による「回遊する人」の数	人/12時間	7,524	H25	8,329	H31	確定 ● 見込み	7,858	△	あり ○ なし	→	令和4年度	北1条橋及び北2条橋において、創成川以東地区と創世交流拠点間を往来する休日の歩行者交通量(休日の余暇活動昼間12時間が対象)を調査し、集計・算出する。	
指標4	対象事業で整備する駐輪場整備台数	台	0	H25	2,079	H31	確定 ● 見込み	2,464	○	あり なし	→			
指標5	交通結節点機能強化による地下鉄白石駅の利用者数	人/日	11,375	H25	12,500	H31	確定 ● 見込み	14,290	○	あり なし	→			
その他の数値指標1				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・指標1、2、5については目標値を少し上回る程度の達成状況であったため、現実的かつ実現性の高い目標値の設定ができたと考えられる。	・歩行者交通量など移動に関連する実態の把握に関しては、周辺地域の移動に関する開発状況等も考慮(例えば地下歩道の整備等)し、それらの状況を補完できる調査等もふまえて検証することが望ましい。
	うまくいかなかった点	・指標3、4については目標が未達の状況であったが、歩行者交通量の調査地点をごく一部の特定箇所に限って設定していたため、その要因の分析が困難であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	・転入者など、新たな居住者に対して、アンケートやヒアリング等により転入事由が把握できると、事業との直接的な結び付けが行いやすくなると考えられる。
	うまくいかなかった点	・指標1の居住人口について、居住人口の増加要因は定性的な要因も含めて多岐にわたるため、目標は達成したものの、事業の成果と目標の達成状況を直接的に結び付けて検証することが困難であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)